

令和7年度 日本大学危機管理学部 個人研究費 研究実績報告書

所属： 危機管理学部 危機管理学科

資格： 教授

氏名： 鈴木 秀洋

研究課題名	要配慮者に対する法制度提言の研究
研究目的及び研究概要	<p>研究者は、児童虐待（広く社会的養育分野・特定妊婦含む）、DV、性被害、LGBTQ、障がい者、高齢者等、また災害時の要配慮者、学校事故・学校防災などを研究対象としている。現在大きな法改正が続いており、積み残した課題も多い。国内・国外の研究を進めていく。</p> <p>社会的に配慮が必要な者らに対する取り組みについて、自らの実務経験も踏まえて、形式的な統計やアンケートでは顕在化しない実質的な姿を浮かび上がらせる。そのためのヒアリングや研究会・勉強会を行う。事件・事故・紛争等、案件や地域により異なる課題について調査、視察を行う。実務を知り尽くしている立場から、より深い視点から視察及びヒアリングを行い、現行の法制度のさらなる改善のための提言を行っていく。</p>
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	<p>研究実績</p> <p><論文></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鈴木秀洋「スウェーデンにおける子どもの権利保障とインクルージョンの考察<3・完>行政・保育・学校現場視察から見た日本の制度・運用との比較分析」『自治研究』第102巻第2号、80-99、2026年2月。 ・鈴木秀洋「スウェーデンにおける子どもの権利保障とインクルージョンの考察<2>行政・保育・学校現場視察から見た日本の制度・運用との比較分析」『自治研究』第102巻第1号、34-52、2026年1月。 ・鈴木秀洋「スウェーデンにおける子どもの権利保障とインクルージョンの考察<1>行政・保育・学校現場視察から見た日本の制度・運用との比較分析」『自治研究』第101巻第12号、45-60、2025年12月。 ・鈴木秀洋「フルインクルーシブ先進国イタリアの現地視察を踏まえた分析と考察（5）——日本でのインクルージョン推進の視点をもって」『自治研究』第101巻第7号、73-98、2025年6月。 ・鈴木秀洋「フルインクルーシブ先進国イタリアの現地視察を踏まえた分析と考察（4）——日本でのインクルージョン推進の視点をもって」『自治研究』第101巻第6号、81-103、2025年5月。 ・鈴木秀洋「フルインクルーシブ先進国イタリアの現地視察を踏まえた分析と考察（3）——日本でのインクルージョン推進の視点をもって」『自治研究』第101巻第5号、75-99、2025年4月。 <p><書籍></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鈴木秀洋「行政の法制度・地域協働・組織マネジメントの視点による子どもの最善の利益の考察」、認定NPO法人CAPNA編著『子ども虐待防止未来への提言 小さい人の笑顔のために』、46-58、ほんの森出版、2025年11月。 ・鈴木秀洋執筆 第6章「子どもと家族の福祉」、編集代表 母子愛育会愛育研究所所長 竹田省『日本子ども資料年鑑2026』p. 191-238、社会福祉法人恩賜財団 母子愛育会 愛育研究所、2026年1月。 <p><学会発表等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本財団主催「ヤングケアラー支援に関するイベント」でコーディネーターとして登壇、2026年2月9日。 ・全国自治体シンポジウム2025三芳町「地方自治と子ども施策」パネルディスカッションにてコーディネーターとして登壇、2026年2月7日。 ・こども家族早期発達支援学会シンポジウム「多様な学びのデザインとインクルーシブを考える」に登壇、2026年1月24日。 ・こども家族早期発達支援学会第11回学術集会にてシンポジストとして登壇、2025年12月14日。 ・鈴木秀洋「こども家庭センターは誰のための制度なのか?」、日本子ども虐待防止学会第31回学術集会ほっかいどう大会、2025年11月15日。 <p><新聞コメント掲載></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「消えた命 気づけなかった 6歳女児 コンクリ詰め事件」朝日新聞2026年1月6日朝刊2面。 ・「遅すぎた『重大な一歩』熱中症死、両親の学校講演実現まで12年」毎日新聞2025年4月26日。